Panasonic

オーディオミキサー

取扱説明書 追補版

品番 WR-DA7（Ver 2.0）

取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと保存し、必要なときにお読みください。



※写真は、メーターブリッジ WR-MTBR（オプション）を取り付けた状態です。

RAMSA

本書について

この取扱説明書は、WR-DA7に搭載されているソフトウェアが、Ver 1.21から2.0にバージョンアップされたことによる変更部分のみをまとめたものです。

WR-DA7取扱説明書（別冊）の章項目にあわせて、追加および変更された内容を説明しています。
また、本文中ではWR-DA7取扱説明書（別冊）の関連ページを次のように表しています。「もくじ」にも関連ページを記載していますので、ご活用ください。

ご使用の際は、本書とWR-DA7取扱説明書（別冊）をあわせてお読みください。

《関連ページ》
第1章 商品概要
16ページ

WR-DA7　Ver 2.0について

WR-DA7　Ver 2.0では、より使いやすいユーザーインターフェース機能の追加をしています。主な内容は次のとおりです。

- 画面内だけで設定可能だったいくつかの機能に、コントロールパネル面からのショートカット操作を追加しました。
- デジタルオーディオ出力信号のAES/EBU、S/PDIFのサブコード出力が変更可能になりました。
- 全入力チャンネルからのルーティング状態を一括で確認できる画面を追加しました。
- BUSチャンネルのフェーダーグループに対応しました。
- MMCのマニュアルロケート機能に対応しました。
- シーン呼び出し時のクロスフェード時間（フェードタイム）設定が、フェードインとフェードアウトを独立して制御できるようになりました。
- サラウンドモニター機能に、ソロ、テープリターンを追加しました。
- RS422プロトコルによるVTRの制御に対応しました。
- 従来の5.1サラウンドだけでなく、3＋1サラウンド機能を追加しました。
- 入力チャンネルのデジタルパッチ機能に対応しました。
- インプットレベル表示LEDのピークレベル値を変更可能にしました。
- MIDIによるデジタルオーディオワークステーションの制御が簡単になりました。
- ユーザーカスタマイズレイヤー設定をシーンへ記憶可能にしました。

WR-DA7アップグレードユーティリティでのバージョンアップについて

WR-DA7　Ver 2.0では、工場出荷時の設定を一部変更しています。アップグレードユーティリティでバージョンアップを行った場合、追加された機能の設定値は不定となります。

新しい工場出荷時の設定を使用するときは、本書をご覧いただき、項目ごとに設定値を変更するか、オールメモリクリア（別冊52ページ）操作を行ってください。

ただし、オールメモリクリアを行うとシーンやライブラリーの内容、現在の設定内容も工場出荷時の状態に戻りますので、アップグレードユーティリティのバックアップ機能により設定をバックアップしてから行ってください。

もくじ

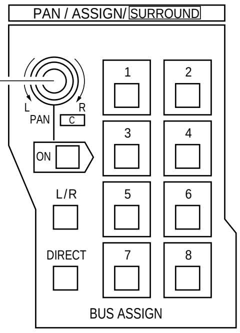
商品概要（第1章）

チャンネル設定画面へ戻るショートカット操作

《関連ページ》
第1章 商品概要
22ページ

PAN調整ノブを押すとサラウンド設定画面を表示できますが、誤ってPAN調整ノブを押してしまったときは、再度PAN調整ノブを押すことにより、サラウンド設定画面からチャンネル設定画面に戻ることができます。

PAN調整ノブ



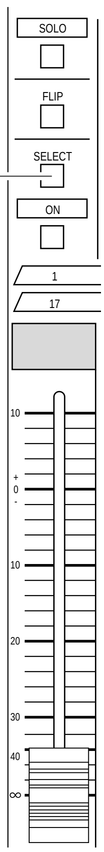
マルチビュー画面でのチャンネル設定コピー操作

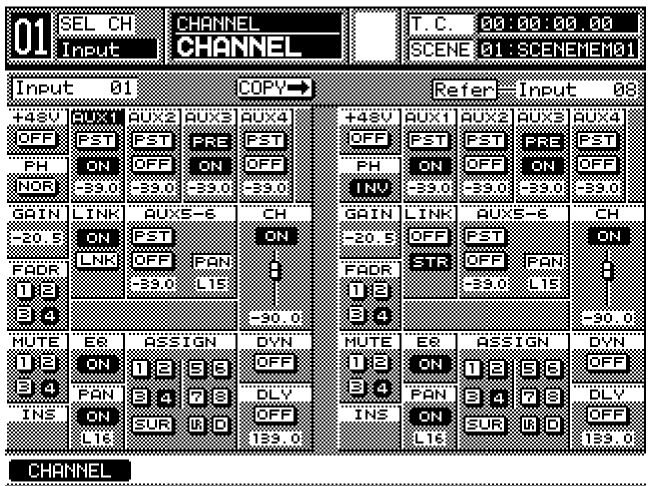
《関連ページ》
第1章 商品概要
36ページ

チャンネル、イコライザー、サラウンド、ダイナミクス設定画面をマルチビュー画面で表示している場合、選択チャンネルの設定内容を参照チャンネルへコピーすることができますが、このコピー操作に次の操作方法を追加しました。

選択チャンネル（コピー元）の［**SELECT**］キーを押しながら、参照チャンネル（コピー先）の［**SELECT**］キーを押すとコピーが実行されます。

［SELECT］キー





［チャンネル設定画面のマルチビュー表示］

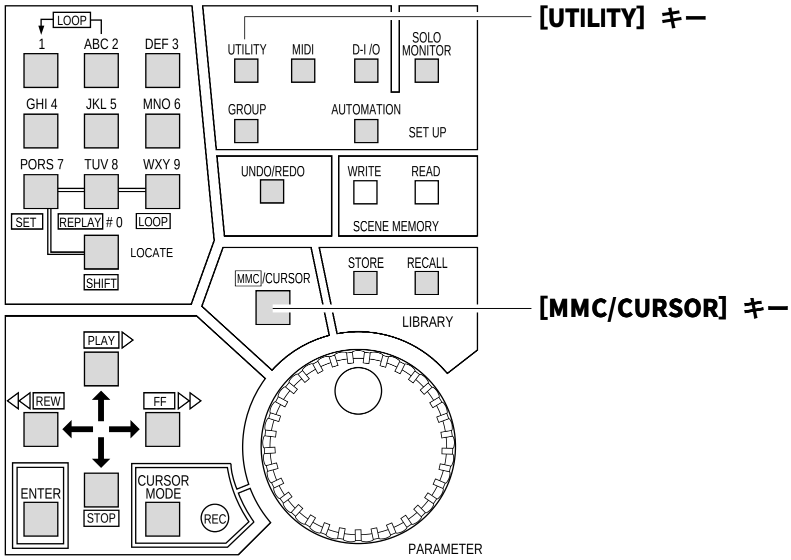
〈メモ〉
マルチビュー画面表示中は、［SELECT］キーによるフェーダーリンク、ステレオ設定のON/OFFはできません。

基本操作（第2章）

オシレータON/OFFのショートカット操作

《関連ページ》
第2章 基本操作
50ページ

［MMC/CURSOR］キーを押しながら［UTILITY］キーを押すと、オシレータのON/OFFを切り替えることができます。押すたびにON/OFFが切り替わります。

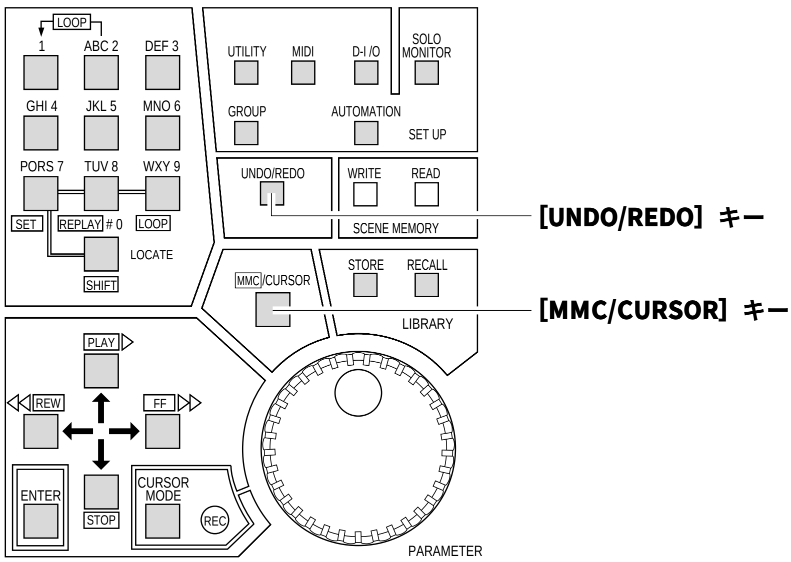


ソロミュートON/OFFのショートカット操作

《関連ページ》
第2章 基本操作
50ページ

［MMC/CURSOR］キーを押しながら［UNDO/REDO］キーを押すと、ソロミュートのON/OFFを切り替えることができます。押すたびにON/OFFが切り替わります。

このショートカット操作により、ソロ・セーフのように、あらかじめ設定してあったいくつかのソロチャンネルを一括でON/OFFするための操作が容易になりました。



チャンネル（第3章）

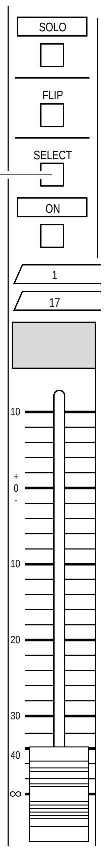
マルチビュー画面でのチャンネル設定コピー操作

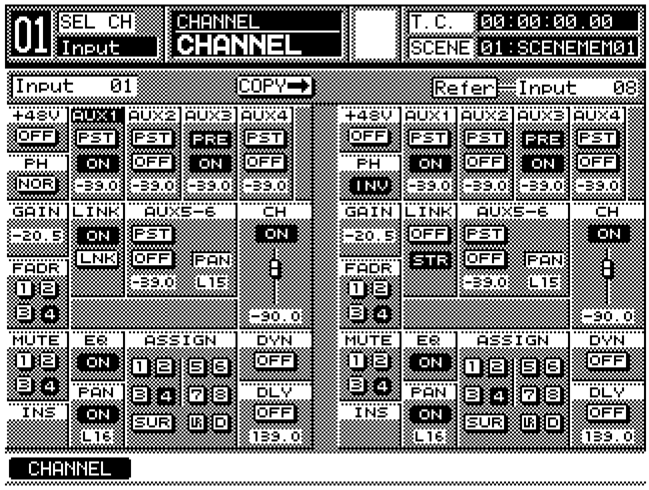
《関連ページ》
第3章 チャンネル
55ページ

チャンネル設定画面をマルチビュー画面で表示している場合、選択チャンネルの設定内容を参照チャンネルへコピーすることができますが、このコピー操作に次の操作方法を追加しました。

選択チャンネル（コピー元）の［**SELECT**］キーを押しながら、参照チャンネル（コピー先）の［**SELECT**］キーを押すとコピーが実行されます。

［SELECT］キー





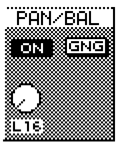
［チャンネル設定画面のマルチビュー表示］

〈メモ〉
マルチビュー画面表示中は、［SELECT］キーによるフェーダーリンク、ステレオ設定のON/OFFはできません。

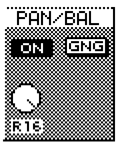
ステレオ設定解除時のPAN定位位置

《関連ページ》
第3章 チャンネル
58,59ページ

ステレオ設定解除時のPAN定位位置を改善しています。
従来は、奇数チャンネル、偶数チャンネルともC（センター）に定位していましたが、Ver 2.0からは次のように定位します。
　奇数チャンネル : 左いっぱい
　偶数チャンネル : 右いっぱい



奇数チャンネル



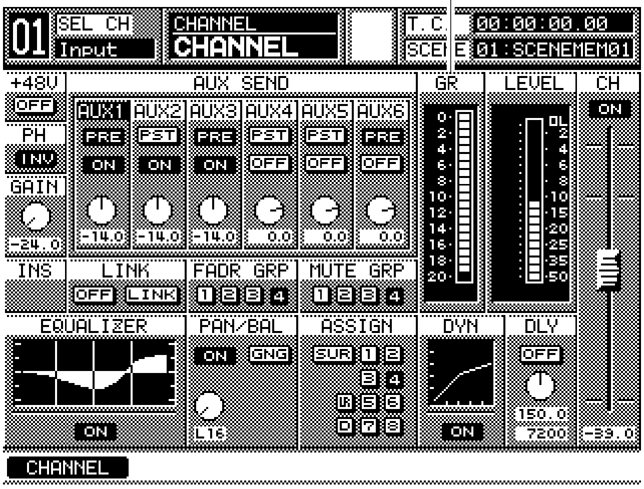
偶数チャンネル

ゲインリダクションメーター［GR］の変更

《関連ページ》
第3章 チャンネル
60ページ

チャンネル設定画面に表示されるゲインリダクションメーター［GR］の目盛りを、10 dB間隔から2 dB間隔に変更しています。

ゲインリダクションメーター［GR］



［チャンネル設定画面］

イコライザー（第5章）

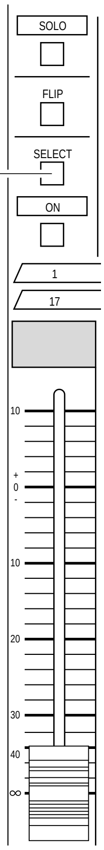
マルチビュー画面でのチャンネル設定コピー操作

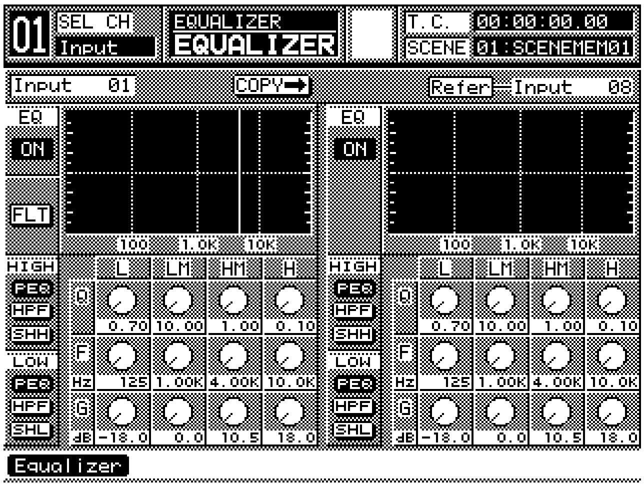
《関連ページ》
第5章 イコライザー
81ページ

イコライザー設定画面をマルチビュー画面で表示している場合、選択チャンネルの設定内容を参照チャンネルへコピーすることができますが、このコピー操作に次の操作方法を追加しました。

選択チャンネル（コピー元）の［SELECT］キーを押しながら、参照チャンネル（コピー先）の［SELECT］キーを押すとコピーが実行されます。

［SELECT］キー





［イコライザー設定画面のマルチビュー表示］

〈メモ〉
マルチビュー画面表示中は、［SELECT］キーによるフェーダーリンク、ステレオ設定のON/OFFはできません。

フィルタタイプ切替時の各パラメータ値

《関連ページ》
第5章 イコライザー
83ページ

フィルタタイプを切り替えると、F（周波数）のみ共通で、他のパラメータは初期値（Q : 1.0 dB、G : 0.0 dB）に設定されましたが、フィルタタイプを切り替えても現在の値が保持されるように改善しました。

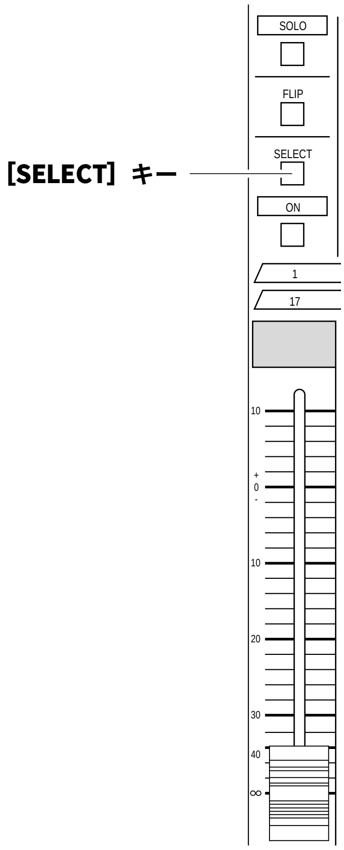
サラウンド（第6章）

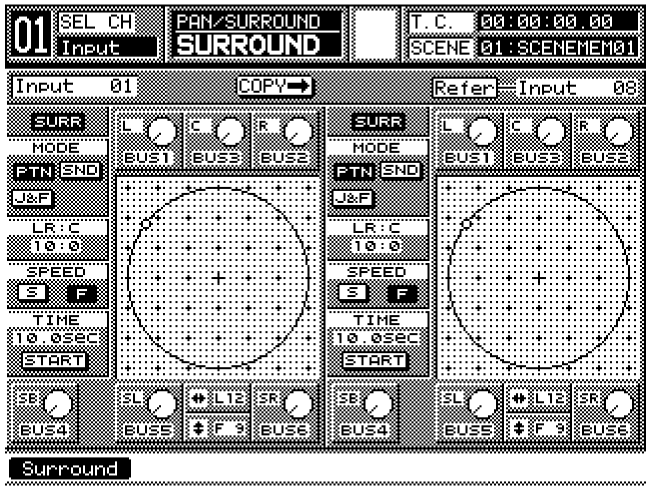
マルチビュー画面でのチャンネル設定コピー操作

《関連ページ》
第6章 サラウンド
93ページ

サラウンド設定画面をマルチビュー画面で表示している場合、選択チャンネルの設定内容を参照チャンネルへコピーすることができますが、このコピー操作に次の操作方法を追加しました。

選択チャンネル（コピー元）の［SELECT］キーを押しながら、参照チャンネル（コピー先）の［SELECT］キーを押すとコピーが実行されます。





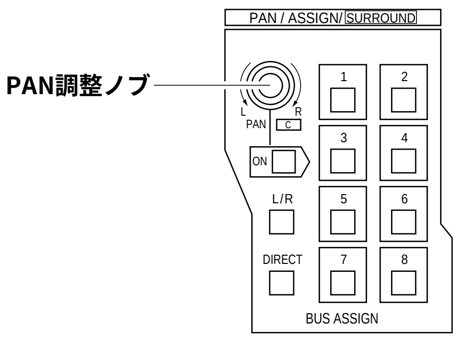
［サラウンド設定画面のマルチビュー表示］

〈メモ〉
マルチビュー画面表示中は、［SELECT］キーによるフェーダーリンク、ステレオ設定のON/OFFはできません。

チャンネル設定画面へ戻るショートカット操作

《関連ページ》
第6章 サラウンド
93ページ

PAN調整ノブを押すとサラウンド設定画面を表示できますが、誤ってPAN調整ノブを押してしまったときは、再度PAN調整ノブを押すことにより、サラウンド設定画面からチャンネル設定画面に戻ることができます。

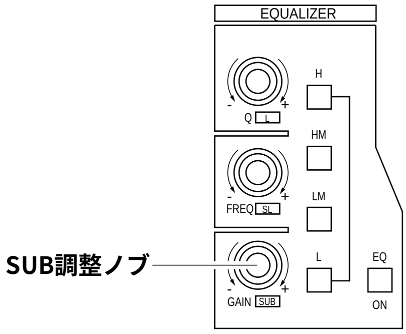


サブウーハレベルの調整

《関連ページ》
第6章 サラウンド
96, 98ページ

5＋1サラウンドのサブウーハレベル（BUS4）調整は、センドVOLモード（SEND VOL）時のみ可能でしたが、ジョグダイヤル&フェーダーモード（JOG & FDR）およびパターンモード（PATTERN）でも調整できるようにしました。

サブウーハレベル（BUS4）の調整は、イコライザー操作部にあるSUB調整ノブで行います。



LR/FRポジションの調整

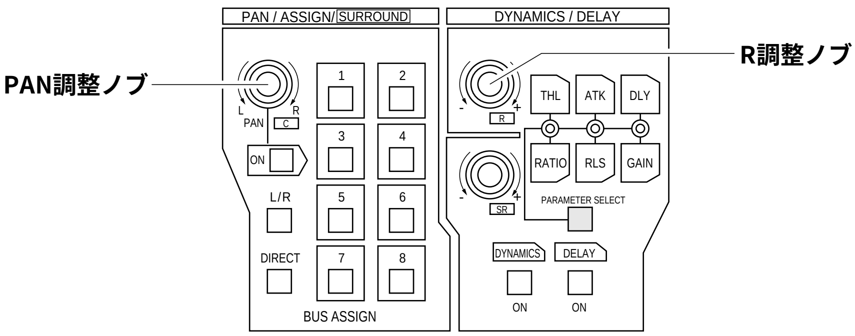
《関連ページ》
第6章 サラウンド
97, 99ページ

ジョグダイヤル&フェーダーモード（JOG & FDR）およびパターンモード（PATTERN）時に、LRポジションとFRポジションの調整を、調整ノブでもできるように操作性を改善しました。

調整方法は次のとおりです。

LRポジション ： ジョグダイヤルでの調整操作に加えて、PAN調整ノブでも調整できます。

FRポジション ： マスターL/Rフェーダーでの調整操作に加えて、ダイナミクス/ディレイ操作部のR調整ノブでも調整できます。

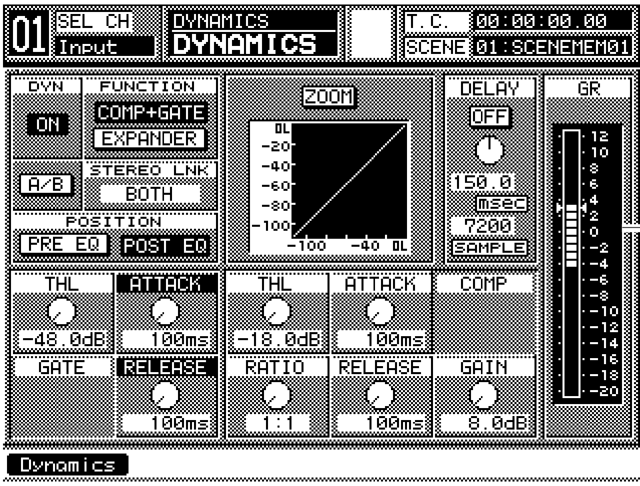


ダイナミクス（第7章）

ゲインリダクションメーター［GR］の変更

《関連ページ》
第7章 ダイナミクス
109ページ

チャンネル設定画面に表示されるゲインリダクションメーター［GR］の目盛りを、10 dB間隔から2 dB間隔に変更しています。



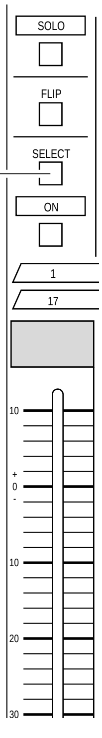
［ダイナミクス設定画面］

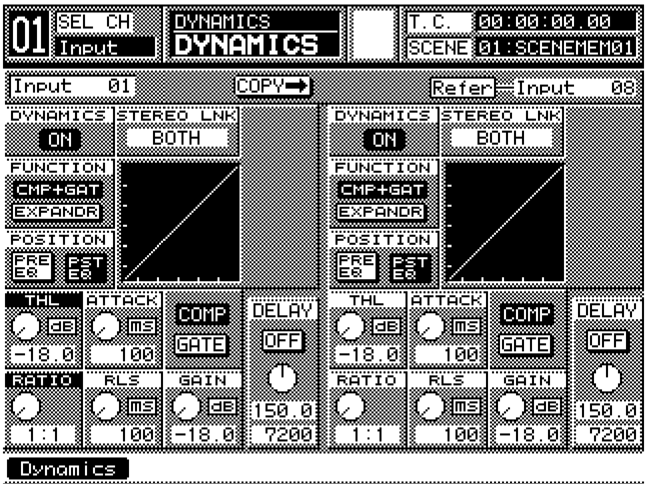
マルチビュー画面でのチャンネル設定コピー操作

《関連ページ》
第7章 ダイナミクス
109ページ

ダイナミクス設定画面をマルチビュー画面で表示している場合、選択チャンネルの設定内容を参照チャンネルへコピーすることができますが、このコピー操作に次の操作方法を追加しました。

選択チャンネル（コピー元）の［**SELECT**］キーを押しながら、参照チャンネル（コピー先）の［**SELECT**］キーを押すとコピーが実行されます。





［ダイナミクス設定画面のマルチビュー表示］

〈メモ〉

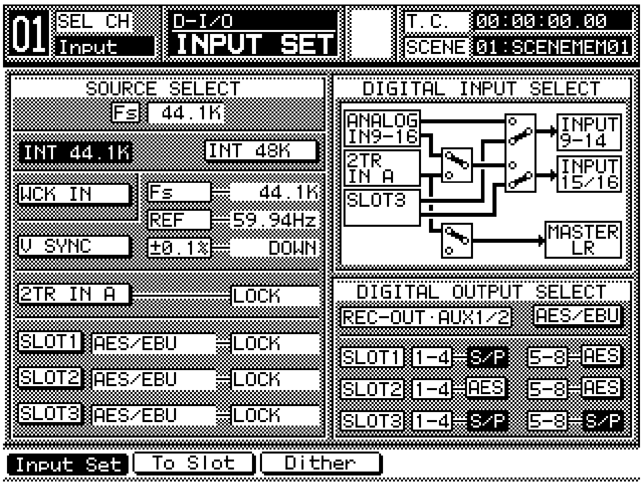
マルチビュー画面表示中は、［SELECT］キーによるフェーダーリンク、ステレオ設定のON/OFFはできません。

デジタルI/O（第10章）

デジタル出力の設定

《関連ページ》
第10章 デジタルI/O
151〜153ページ

デジタル入力設定画面に「DIGITAL OUTPUT SELECT」部が追加され、7つのデジタル出力（REC OUTとAUX1/2、スロット1,2,3の1〜4チャンネル、5〜8チャンネル）から出力されるデジタル音声信号のサブコードを、それぞれ「AES/EBU」または「S/PDIF」に切り替えることができます。
デジタル出力の設定方法は次のとおりです。



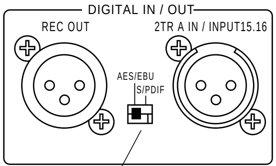
DIGITAL OUTPUT SELECT部

［デジタル入力設定画面］

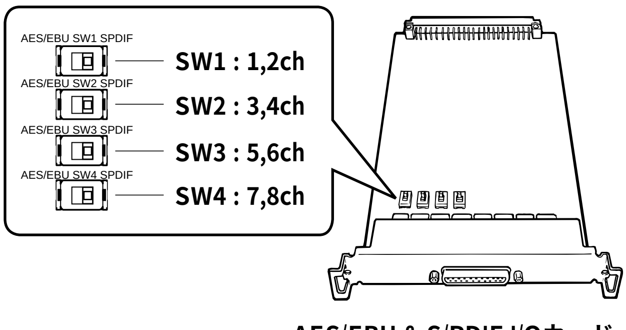
1. **DIGITAL OUTPUT SELECT部から、設定したいデジタル出力のボタンにカーソルを合わせて［ENTER］キーを押し、AES/EBU（AES）またはS/PDIF（S/P）を設定します。**

2. **DA7後面のレコード出力端子（REC OUT）右側にあるフォーマット切替スイッチと、AES/EBU & S/PDIF I/Oカード（別売品）のディップスイッチを、手順3で設定した状態（AES/EBUまたはS/PDIF）と同じ設定にします。**

   フォーマット切替スイッチおよびディップスイッチは、出力信号の電気的仕様を切り替えるものであり、画面上のボタンとは連動しません。必ず、出力する信号形式に合わせてスイッチを切り替えてください。



フォーマット切替スイッチ



AES/EBU & S/PDIF I/Oカード
（WR-AESS）

〈重要〉

デジタル出力の工場出荷時設定は「AES/EBU」ですが、WR-DA7アップグレードユーティリティでバージョンアップを行った場合、設定値が不定となっています。必ず、設定を確認してからお使いください。

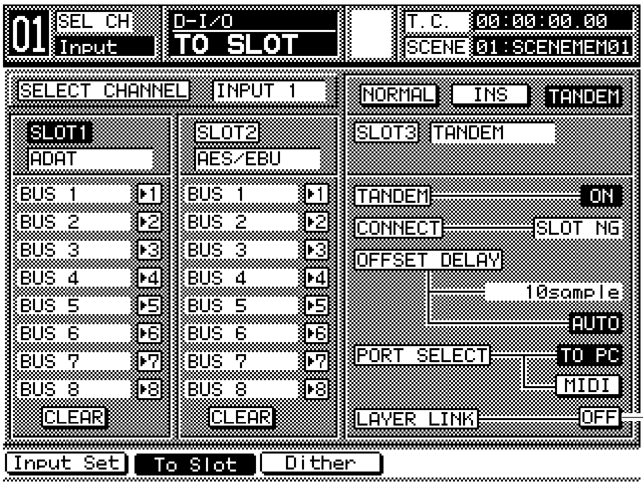
タンデム接続カード装着時のレイヤーリンク設定

《関連ページ》
第10章 デジタルI/O
156ページ

DA7をタンデム接続で使用する場合、フェーダーレイヤーの切り替え動作がマスターとスレーブの間で必ず連動していましたが、このフェーダーレイヤー連動のON/OFFを設定できるようにしました。

DA7後面のスロット3にタンデム接続カード（別売品）を装着すると、スロット設定画面のスロット3設定部に、レイヤーリンクのON/OFFボタンが表示されます。

設定方法は次のとおりです。



1. レイヤーリンクのON/OFFボタンにカーソルを合わせて［ENTER］キーを押し、ON/OFFを設定します。

ON ：フェーダーレイヤーの切り替えが、マスターとスレーブ間で連動します。

OFF ：フェーダーレイヤーの切り替えが、マスターとスレーブ間で連動しません。

〈重要〉

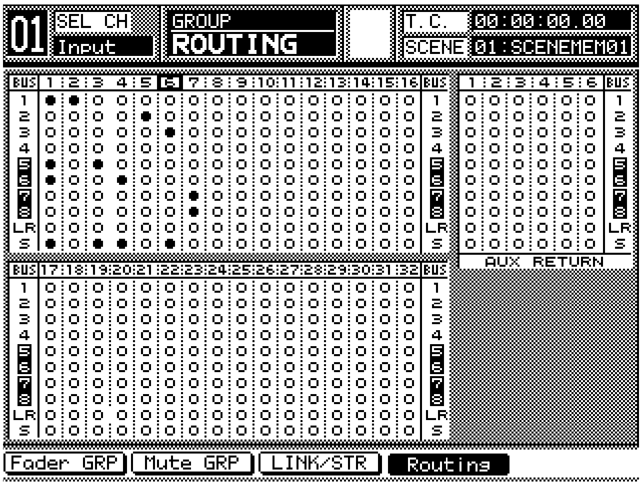
工場出荷時設定は「ON」ですが、WR-DA7アップグレードユーティリティでバージョンアップを行った場合、設定値が不定となっています。
必ず、設定を確認してからお使いください。

グループ（第11章）

ルーティング画面の追加

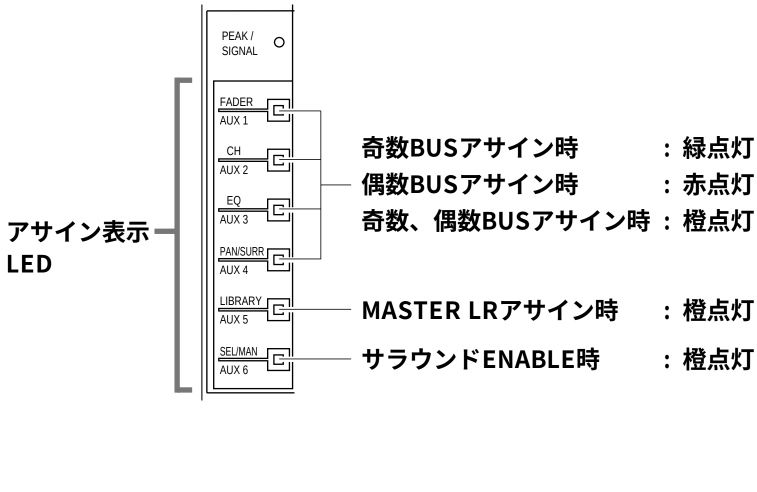
《関連ページ》
第11章 グループ
159ページ

全入力チャンネルのBUS、MASTER LRへのアサイン状態、およびサラウンドのENABLE/DISABLE状態を確認できるルーティング画面（Routing）を追加しました。



［ルーティング画面］

- INPUTもしくはAUX RETURNがステレオ設定の場合は、チャンネルを仕切る線が無くなります。（上図では、INPUT3と4がステレオになっています。）
- BUSがステレオ設定の場合は、BUS表示部が白黒反転表示になります。（上図では、BUS5と6、およびBUS7と8がステレオになっています。）
- ルーティング画面表示中は、画面上で選択されているチャンネルに対して、テンキーでアサインのON/OFFが切り替えられます。
画面上で選択されているチャンネルは、チャンネル番号が□枠で囲われます。
（上図では、INPUT6が画面上で選択されています。コントロールパネル上でのチャンネル選択状態とは関係ありません。）
テンキーの［1］〜［8］キー　：BUS1〜8のアサインON/OFF
テンキーの［9］キー　：MASTER LRのアサインON/OFF
テンキーの［0］キー　：サラウンドのENABLE/DISABLE
- ルーティング画面表示中は、コントロールパネルのアサイン表示LEDでもアサイン状態を確認できます。



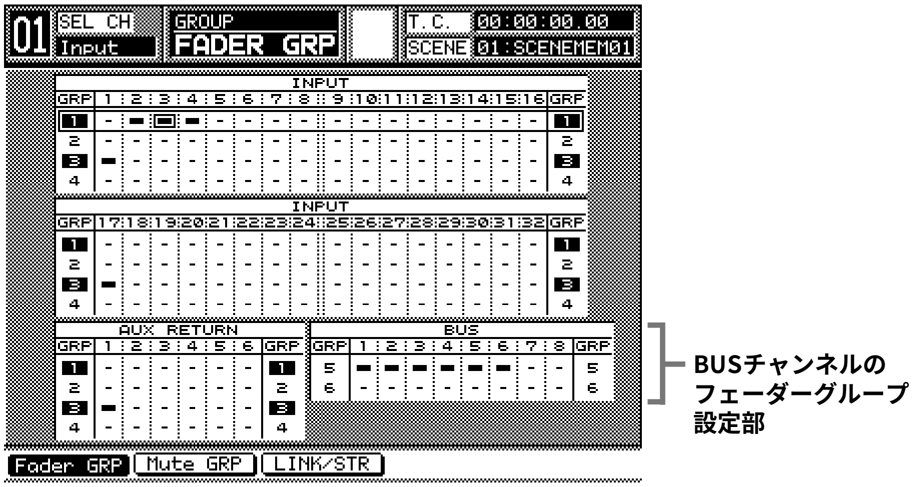
BUSチャンネルのフェーダーグループ設定

《関連ページ》
第11章 グループ
162ページ

フェーダーグループ設定画面に、BUSチャンネルのフェーダーグループ設定部を追加しました。

入力チャンネルとは独立し、フェーダーグループ5, 6としてBUSチャンネルのフェーダーグループ設定が行えます。

設定操作については、WR-DA7取扱説明書の162ページをご覧ください。



［フェーダーグループ設定画面］

〈重要〉

工場出荷時設定はグループ5, 6がENABLE（ON）状態、全BUSチャンネルは非選択状態ですが、WR-DA7アップグレードユーティリティでバージョンアップを行った場合、設定値が不定となっています。
必ず、設定を確認してからお使いください。

オートメーション（第12章）

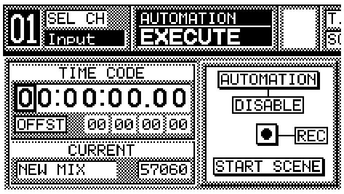
MMCのマニュアルロケート操作

《関連ページ》
第12章 オートメーション
173, 177ページ

MMC対応のMTR等を接続して、指定のタイムコードへジャンプする場合、ロケートポイント（1〜6）を設定しておく必要がありましたが、マニュアル操作で任意のタイムコードにロケートできるようになりました。

操作方法は次のとおりです。

1. オートメーション実行画面のタイムコード部にカーソルを合わせ、［ENTER］キーを押します。
テンキーで直接タイムコードを入力する状態になります。



2. テンキーでジャンプしたいタイムコードを入力します。
テンキーを押すごとにカーソルが右の桁に移動します。各桁の移動は、左右のカーソルキーで行うこともできます。

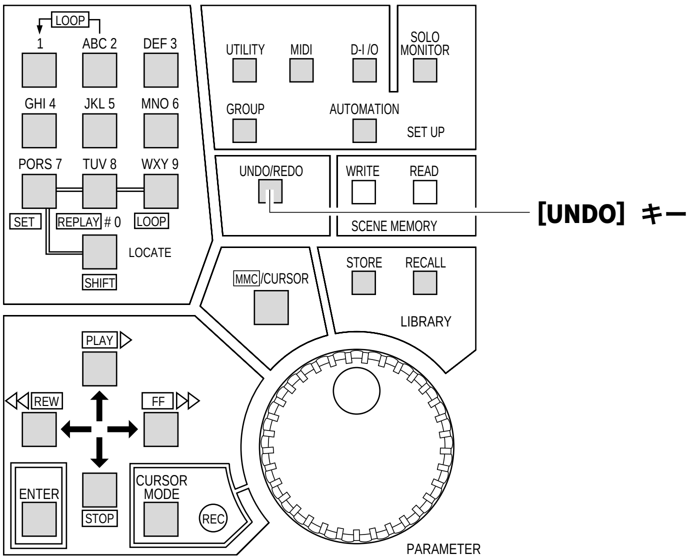
3.［ENTER］キーを押します。
入力したタイムコードにジャンプします。

[AUTOMATION/AUX］キー操作のUNDO

《関連ページ》
第12章 オートメーション
175, 184ページ

オートメーションの操作において、**[AUTOMATION/AUX］**キーを押してオートメーション機能を「ENABLE」に設定すると、記録されていたスタートシーンが呼び出されます。

従来は、操作を誤って**[AUTOMATION/AUX］**キーを押してしまった場合、元の状態に戻すことができませんでしたが、**[UNDO］**キーを押すことにより元の状態に戻せるように改善しました。



オートメーション再生中のDA7フリーズ問題について

《関連ページ》
第12章 オートメーション
187ページ

オートメーションのフェーダーイベント再生中に、DA7のフェーダーを動かすと、DA7がフリーズして操作不可能になる問題を修正しています。

シーンメモリー（第13章）

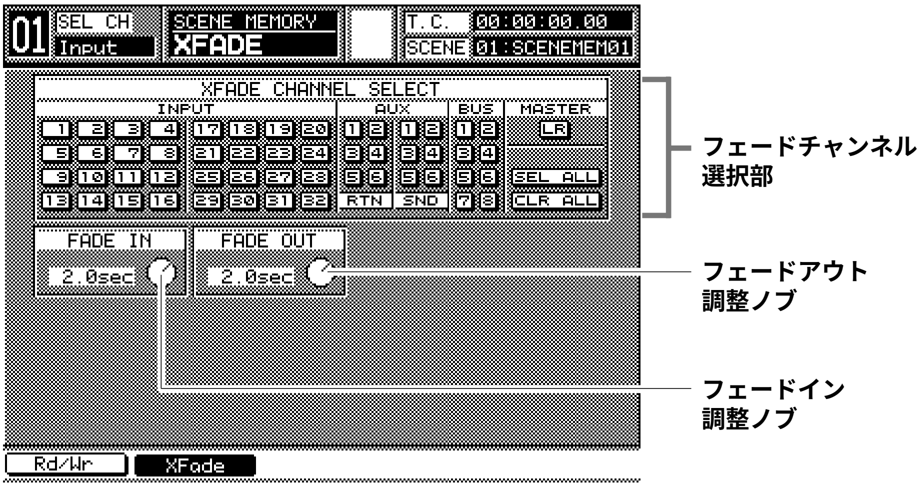
クロスフェード時間のフェードイン/アウト設定

《関連ページ》
第13章 シーンメモリー
200ページ

シーンメモリー呼び出し時に、カレントとシーンメモリーでフェーダーレベルが異なる場合、クロスフェード時間（フェードタイム）を設定することにより、呼び出したシーンメモリーのレベルまでフェーダーレベルを連続的に変化させることができます。

Ver 2.0では、フェードタイム設定画面にフェードイン調整ノブとフェードアウト調整ノブを設け、クロスフェード時間をフェードインとフェードアウト別々に設定できるようにしました。

設定操作は次のとおりです。



［フェードタイム設定画面］

1. **［SELECT］キーを押すか、フェードチャンネル選択部のチャンネルボタンにカーソルを合わせて［ENTER］キーを押し、チャンネルを選択します。**
   選択したチャンネルは反転表示されます。
   SEL ALLボタンを選択すると、すべてのチャンネルが選択されます。
   CLR ALLボタンを選択すると、選択されているチャンネルが解除されます。
2. **フェードイン調整ノブまたはフェードアウト調整ノブにカーソルを合わせてジョグダイヤルを回し、フェードタイムを設定します。**
   時間は0〜3secの間で設定します。0secに設定した場合、フェード機能はOFF扱いとなります。

〈重要〉

工場出荷時設定は、フェードイン/アウトともに「0.0 sec」ですが、WR-DA7アップグレードユーティリティでバージョンアップを行った場合、設定値が不定となっています。必ず、設定を確認してからお使いください。

モニター（第14章）

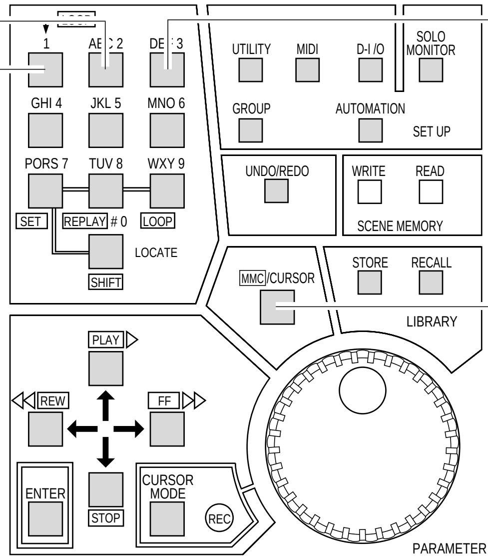
サラウンドモニターでのテープリターンモニタリング

《関連ページ》
第14章 モニター
204ページ

〈重要〉
MTR等への記録中は、操作しないでください。

サラウンドモニターでは、テープへの送り音だけがモニタリング可能でしたが、［MMC/CURSOR］キーを押しながらテンキーの［1］［2］［3］キーを押すことにより、スロット1,2,3へのテープ送りとテープリターンのモニタリングを切り替えられるようにしました。

［MMC/CURSOR］＋［1］キー : スロット1のモニタリング切替
［MMC/CURSOR］＋［2］キー : スロット2のモニタリング切替
［MMC/CURSOR］＋［3］キー : スロット3のモニタリング切替



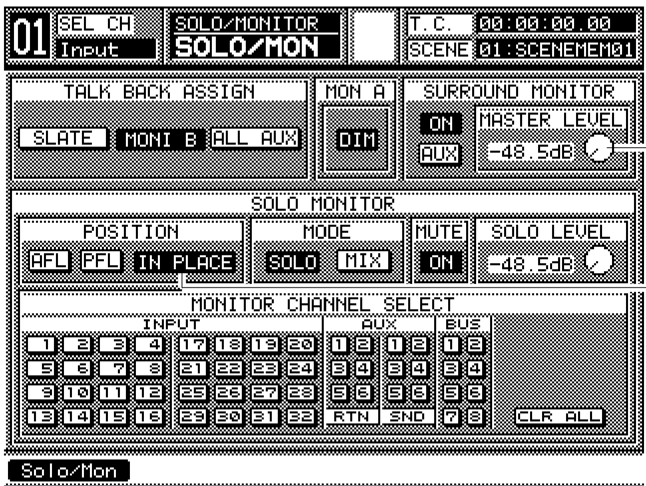
サラウンドモニターでのソロモニタリング

《関連ページ》
第14章 モニター
208ページ

〈重要〉
MTR等への記録中は、操作しないでください。

ソロポイントの設定が「IN PLACE」のときに、サラウンドが有効になっているチャンネルをソロにした場合、サラウンドモニターが「ON」状態でのソロモニタリングを可能にしました。

モニタリングの出力レベルは、MASTERレベル調整ノブで調整します。



［モニター設定画面］

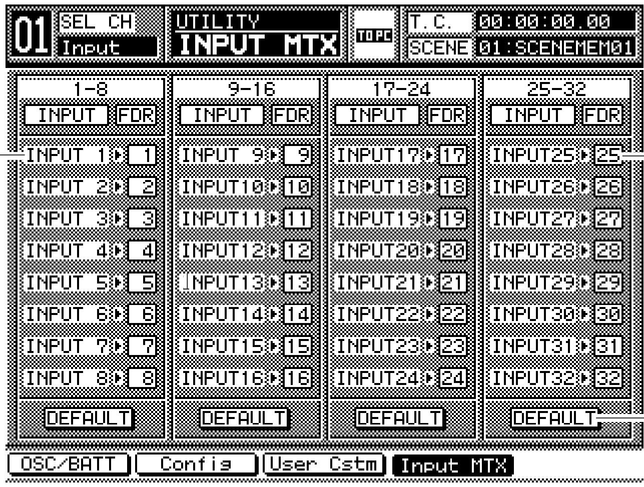
ユーティリティ（第15章）

入力チャンネルのデジタルパッチ機能

《関連ページ》
第15章 ユーティリティ
211ページ

物理的な入力チャンネル（1〜32）に対して、INPUT1〜8、9〜16、17〜24、25〜32の8チャンネル単位でフェーダーのアサインを変更することができるデジタルパッチ機能に対応しました。（INPUT MTX画面を追加しています。）

設定操作は次のとおりです。



［INPUT MTX画面］

1. **［UTILITY］キーを押します。**
   ユーティリティの設定画面が表示されます。
2. **手順1の操作でINPUT MTX画面が表示されなかったときは、テンキーの［4］キーを押します。**
   続けて［**UTILITY**］キーを押すか、画面下部のInput MTXボタンにカーソルを合わせ、［**ENTER**］キーを押してもINPUT MTX画面に切り替えられます。
3. **カーソルを設定したいチャンネル選択部に合わせ、ジョグダイヤルで設定するチャンネルを選択し、［ENTER］キーを押します。**
   物理的な入力に対して任意のフェーダーがアサインされます。
   設定の変更により、インプットレベル表示LED（PEAK/SIGNAL）を含めたコントロールパネル上の表示、および画面の選択が変更されます。
4. **工場出荷時の設定に戻すときは、カーソルをDEFAULTボタンに合わせ、［ENTER］キーを押します。**

〈重要〉

工場出荷時設定は、INPUT1が1、INPUT2が2、....INPUT32が32というように、各INPUTとFDRが対応していますが、WR-DA7アップグレードユーティリティでバージョンアップを行った場合、設定値が不定となっています。必ず、設定を確認してからお使いください。

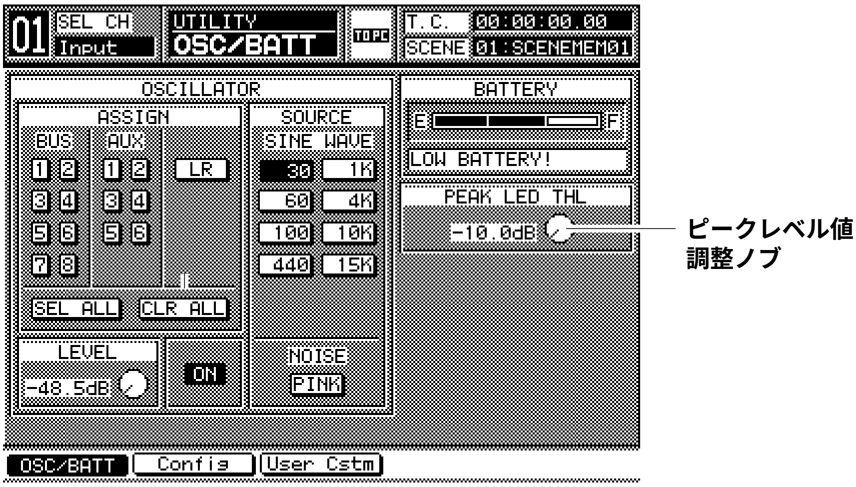
インプットレベル表示LEDのピークレベル値設定

《関連ページ》
第15章 ユーティリティ
213, 214ページ

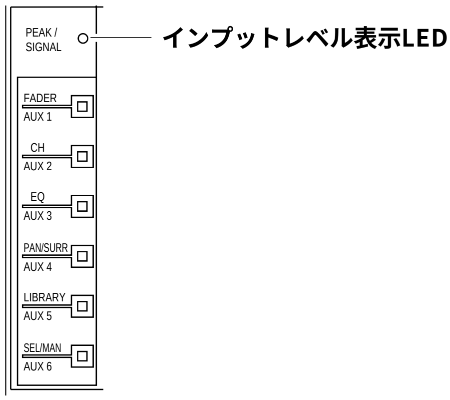
オシレータ設定/バッテリー点検画面に、ピークレベル値を設定する調整ノブを追加しました。

この調整ノブにより、インプットレベル表示LEDのピークレベル（赤点灯）表示を、−10 dB〜0 dBの範囲で、1 dB間隔に設定することができます。

ピークレベル値は、カーソルをピークレベル値調整ノブに合わせ、ジョグダイヤルを回すことにより設定できます。



［オシレータ設定/バッテリー点検画面］



〈重要〉

工場出荷時設定は「−6 dB」ですが、WR-DA7アップグレードユーティリティでバージョンアップを行った場合、設定値が不定となっています。
必ず、設定を確認してからお使いください。

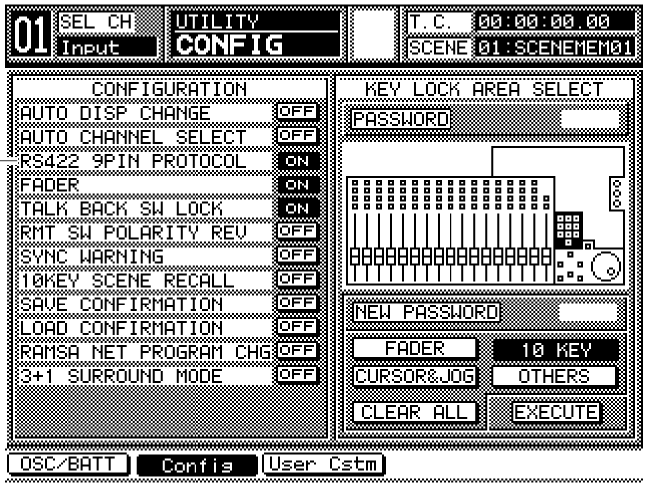
RS422プロトコルによるVTR制御

《関連ページ》
第15章 ユーティリティ
215～217ページ

ユーザーコンフィグ画面に「RS422 9PIN PROTOCOL」という項目を追加し、RS422プロトコルによるVTR制御に対応しました。

この項目を「ON」に設定すると、MMC機能の操作に対して、RS422プロトコルのメッセージがDA7後面のRS-422/485端子（D-sub 9ピン）から送信されるようになり、RS-422/485端子に接続したVTRの制御が可能となります。

RS422 9PIN PROTOCOL



[ユーザーコンフィグ画面]

- 制御可能な操作は「PLAY」「FF」「REW」「STOP」「LOCATE」です。
- 「REPLAY」と「LOOP」は操作できません。
- 通信速度は38.4 kbpsに固定されます。

〈重要〉

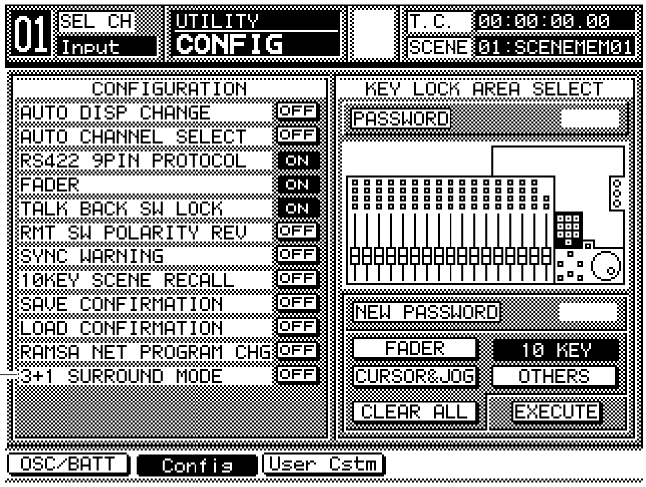
RS422 9PIN PROTOCOLの工場出荷時設定は「OFF」ですが、WR-DA7アップグレードユーティリティでバージョンアップを行った場合、設定値が不定となっています。必ず、設定を確認してからお使いください。

3＋1サラウンドモード

《関連ページ》
第15章 ユーティリティ
215〜217ページ

ユーザーコンフィグ画面に「3＋1 SURROUND MODE」という項目を追加し、L/C/R/Sの3＋1サラウンドモードに対応しました。

この項目を「ON」に設定することにより、3＋1サラウンドモードになります。ただし、モニター設定画面のサラウンドモニター設定が「OFF」で、すべてのサラウンドチャンネルのソロが「OFF」のときのみ、3＋1サラウンドモードのON/OFFを設定できます。



［ユーザーコンフィグ画面］

- 3＋1サラウンドモード時の動作は次のようになります。

BUS1	：	Leftチャンネル
BUS2	：	Rightチャンネル
BUS3	：	Centerチャンネル
BUS4	：	Surroundチャンネル
BUS5〜8	：	通常のBUSとして使用できます。

〈重要〉

3＋1 SURROUND MODEの工場出荷時設定は「OFF」ですが、WR-DA7アップグレードユーティリティでバージョンアップを行った場合、設定値が不定となっています。必ず、設定を確認してからお使いください。

ユーザーカスタマイズレイヤー設定のシーンメモリーへの書き込み

《関連ページ》
第15章 ユーティリティ
220, 221ページ

従来は、ユーザーカスタマイズレイヤーにフェーダーを割り当てても、それを記憶する手段はありませんでしたが、シーンメモリーの0〜10番に書き込みできるように改善しました。

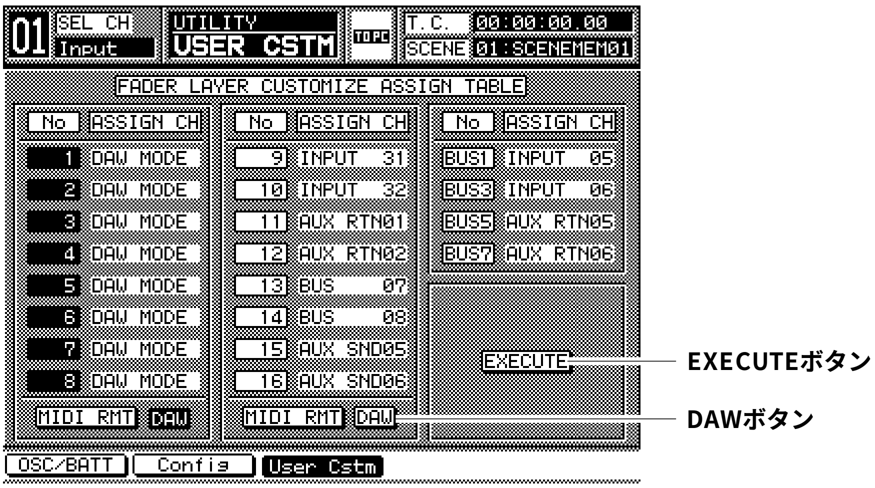
シーンメモリーの0〜10番を呼び出したときは、ユーザーカスタマイズレイヤーが記憶されている状態に変更されます。

MIDIによるデジタルオーディオワークステーションとの双方向制御

《関連ページ》
第15章 ユーティリティ
221ページ

ユーザーカスタマイズ画面に、デジタルオーディオワークステーション（Digi DesignのProTools等）との双方向制御を可能とする「DAWボタン」を追加しました。

設定操作は次のとおりです。



［ユーザーカスタマイズ画面］

1. DAWボタンにカーソルを合わせ、［ENTER］キーを押します。

DAWボタンが白黒反転表示になり、チャンネル選択部に「DAW MODE」と表示されます。

DAWボタンは、どちらか片方のみ選択してください。両方のDAWボタンを選択すると、手順2の操作時に「CONFIRMATION: DUPLICATION!!」と書かれた子画面が表示されますので、OKボタンにカーソルを合わせて**［ENTER］**キーを押し、どちらか片方のDAWボタンを解除してください。

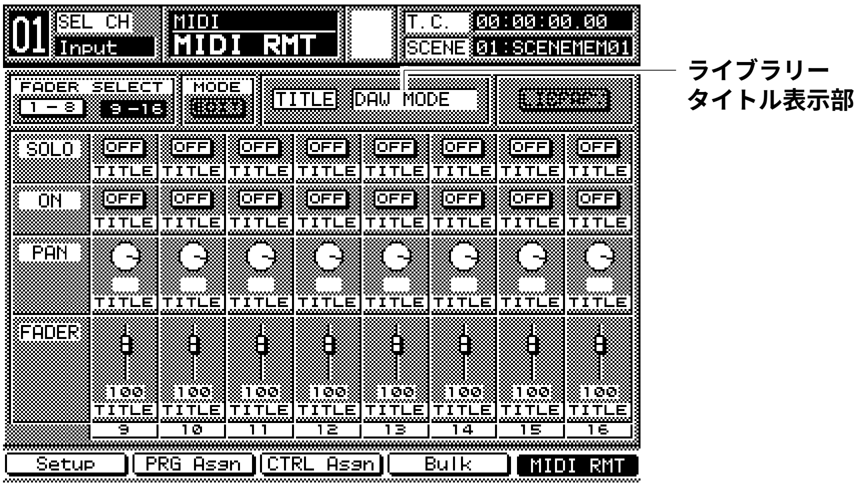
2. EXECUTEボタンにカーソルを合わせ、［ENTER］キーを押します。

設定が完了します。

〈重要〉

工場出荷時設定は、すべて「NONE」ですが、WR-DA7アップグレードユーティリティでバージョンアップを行った場合、設定値が不定となっています。必ず、設定を確認してからお使いください。

DAWモードが設定されているときは、MIDIリモート画面のライブラリータイトル表示部に「DAW MODE」と表示され、MIDIリモートライブラリーの呼び出しはできません。



［MIDIリモート画面］

●ProToolsをお使いの場合は

- ProTools側はサーフェス・ユニットとして、OMSにMackie Designの「HUI」を認識させてください。
- DA7側は、MIDI設定画面のRemote1またはRemote2のPORTをProToolsと接続しているポート（MIDIまたはTO PC）に設定し、CHを「1」に設定してください。

  このとき、Gen RxのPORTとCH設定が、Remote1またはRemote2の設定（DAWモードを設定している方）と同じにならないようにしてください。設定が同じだと、DA7の操作子も同時に制御されてしまいます。
- DA7からの操作は、「フェーダー」「ミュート」「ソロ」「パン」「トランスポート」「バンク・スワップ / チャンネル・スクロール」がProToolsと連動します。

  各操作方法は次のとおりです。

（1）フェーダーの操作

MIDIリモート画面が表示されていて、フェーダーレイヤーが「USER CSTM / MIDI RMT」にあるときに、DAWモードに設定されているMIDIリモートチャンネルのフェーダー（コントロールパネル面、または画面上）を操作します。

ProToolsからの制御を受けて動作することも可能です。

ProToolsは、DigiDesignの登録商標です。
HUIは、Mackie Designの登録商標です。

（2）ミュートの操作

MIDIリモート画面が表示されていて、フェーダーレイヤーが「USER CSTM / MIDI RMT」にあるときに、DAWモードに設定されているMIDIリモートチャンネルの［**ON**］キーでチャンネルON/OFF（コントロールパネル面、または画面上）を操作します。

ProToolsからの制御を受けて動作することも可能です。

（3）ソロの操作

MIDIリモート画面が表示されていて、フェーダーレイヤーが「USER CSTM / MIDI RMT」にあるときに、DAWモードに設定されているMIDIリモートチャンネルの［**SOLO**］キーでソロ（コントロールパネル面、または画面上）を操作します。

ProToolsからの制御を受けて動作することも可能です。

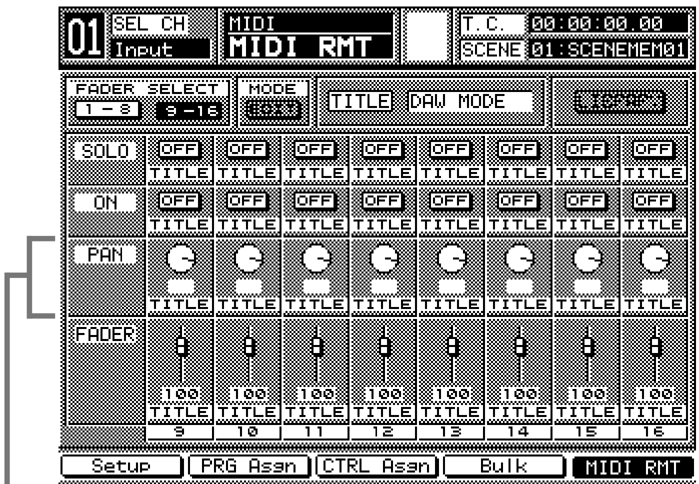
（4）パンの操作

- MIDIリモート画面が表示されていて、フェーダーレイヤーが「USER CSTM / MIDI RMT」にあるときに、DAWモードに設定されているMIDIリモートチャンネルのPAN調整ノブ（コントロールパネル面、または画面上）を操作します。

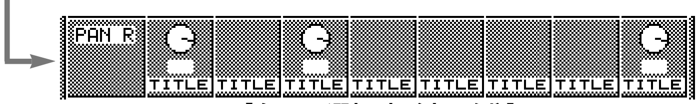
  コントロールパネル面のPAN調整ノブを操作したときは早く動作し、ジョグダイヤルにて画面上のPAN調整ノブを操作したときは細かく動作します。

- ProToolsからの制御を受けて動作することも可能です。

- コントロールパネル面のPAN調整ノブを押すと、プラグインで設定されているステレオ・パンの右側PANに画面が切り換わります。
  この場合、「PAN R」と表示され、ステレオ設定されていないチャンネルのPAN調整ノブは表示されません



［通常PAN（左PAN）選択時］



［右PAN選択時（表示例）］

(5) トランスポートの操作

コントロールパネル面の **[MMC/CURSOR]** キーを押しながら、カーソルキー(上下左右)、および **[CURSOR MODE]** キーを押すことにより、ProToolsのトランスポートの操作が可能です。

[MMC/CURSOR] +上キー	: PLAY
[MMC/CURSOR] +下キー	: STOP
[MMC/CURSOR] +左キー	: REW
[MMC/CURSOR] +右キー	: FF
[MMC/CURSOR] + **[CURSOR MODE]** キー	: REC

DA7から制御可能なのは、「PLAY」「STOP」「REW」「FF」「REC」のみです。

(6) バンク・スワップの操作

MIDIリモート画面が表示されていて、フェーダーレイヤーが「USER CSTM / MIDI RMT」にあるときに、ProToolsのバンク・スワップ機能を使用することが可能です。

右のバンクにスワップする場合は、コントロールパネル面のダイナミクス/ディレイ操作部にあるTHL, ATK, DLY調整ノブを押します。

左のバンクにスワップする場合は、コントロールパネル面のイコライザー操作部にあるQ調整ノブを押します。

(7) チャンネル・スクロールの操作

MIDIリモート画面が表示されていて、フェーダーレイヤーが「USER CSTM / MIDI RMT」にあるときに、ProToolsのチャンネル・スクロール機能を使用することが可能です。

右のチャンネルにスクロールする場合は、コントロールパネル面のダイナミクス/ディレイ操作部にあるRATIO, RLS, GAIN調整ノブを押します。

左のチャンネルにスクロールする場合は、コントロールパネル面のイコライザー操作部にある周波数調整ノブを押します。

●ProTools使用時の［FLIP］キーを用いたフェーダー制御について

（1）オートパンチイン機能を用いる場合

ProToolsのオートメーション機能実行中などで、DA7のコントロールパネル面フェーダーが制御されているときは、DA7からのフェーダー操作はできません。

オートパンチイン機能（Auto Touch, Auto Latch, Auto Write）をDA7から行うときは、次のように操作してください。

① ProToolsのオートメーションを開始する。
② オートパンチインしたいチャンネルの［**FLIP**］キーを押したままの状態にする。
③ オートパンチインしたいチャンネルのフェーダーを操作する。
④ フェーダーを動かしている最中に、押しつづけていた［**FLIP**］キーを離す。
⑤ パンチアウトしたいところで、フェーダーの操作を止める。
フェーダーの操作を止めた時点で、フェーダーは記憶されていたフェーダー位置に戻ります。

（2）フェーダー・グループから一時的にメンバーを独立させたいとき

ProToolsのミックス・グループ機能を用いてフェーダー・グループを組んでいるときに、一時的にグループ・メンバーのフェーダーをグループから外したいときは次のように操作してください。

① グループ・マスター・チャンネルの［**FLIP**］キーを押したままの状態にする。
② 一時的にグループから外すメンバーのフェーダーを操作する。
③ バランスが決まったところで、押しつづけていた［**FLIP**］キーを離す。
グループ・マスターのフェーダーを動かすと、再びメンバーのフェーダーが連動するようになります。

付録

工場出荷時設定の変更

《関連ページ》
付録
242, 243ページ

WR-DA7アップグレードユーティリティでバージョンアップを行った場合は、オールメモリクリア操作（別冊52ページ）を行ったあとに、新しい設定値が反映されます。

●BUS、AUXセンドチャンネルのチャンネル設定画面

（1）チャンネルON（CH）
OFFからONに変更しました。

（2）フェーダー
ー∞から±0 dBに変更しました。

●ダイナミクス設定画面

（1）COMP＋GATE→COMP、およびEXP→ATT
10 msから35 msに変更しました。

MIDIコントロールチェンジ番号の使用制限廃止

《関連ページ》
付録　259ページ

MIDIリモートのメッセージとしてコントロールチェンジを使用する場合、コントロールチェンジ番号「6」「38」「96〜101」は使用不可能でしたが、すべての番号（0〜119）が使用できるように改善しました。

新機能の工場出荷時設定一覧

Ver 2.0から追加された機能の工場出荷時設定は次のとおりです。

画面名称	設定項目			工場出荷時の設定
オシレータ設定/バッテリー点検画面	PEAK THL LEVEL			－6.0 dB
ユーザーコンフィグ画面	ミキサーの動作モード（CONFIGURATION）		RS422 9PIN PROTOCOL	OFF
			3＋1 SURROUND MODE	OFF
INPUT MTX画面	FDR		1	INPUT1
			2	INPUT2
			3	INPUT3
			4	INPUT4
			5	INPUT5
			6	INPUT6
			7	INPUT7
			8	INPUT8
			9	INPUT9
			10	INPUT10
			11	INPUT11
			12	INPUT12
			13	INPUT13
			14	INPUT14
			15	INPUT15
			16	INPUT16
			17	INPUT17
			18	INPUT18
			19	INPUT19
			20	INPUT20
			21	INPUT21
			22	INPUT22
			23	INPUT23
			24	INPUT24
			25	INPUT25
			26	INPUT26
			27	INPUT27
			28	INPUT28
			29	INPUT29
			30	INPUT30
			31	INPUT31
			32	INPUT32
デジタル入力設定画面	DIGITAL OUTPUT SELECT			AES
スロット設定画面	SLOT3	TANDEM	LAYER LINK	ON
フェーダーグループ設定画面	グループ5		ON/OFF	ON
	グループ6		ON/OFF	ON

松下電器産業株式会社
松下通信工業株式会社　AV システム事業部
〒224-8539　横浜市都筑区佐江戸町600　☎（045）932-1231（大代表）
av0400-0